

サイクロン乗り越え2橋架け替え

アフリカ南東の島国マダガスカルでは、首都アンタナナリボと同国最大の商港を擁する港湾都市トアマシナを結ぶ国道2号線(延長369キロ)を経済発展の後、アロチャ・マンゲル



完成したマンゲル橋

ムラマンガ市内にある2号線上の「マンゲル橋」と「アンツァパザナ橋」の二つの橋梁を架け替え、取り付け道路も整備した。両橋梁は橋面に穴があくなど老朽化が著しく、車は片側交互通行という交通のボトルネック。このうちマンゲル橋は

国道二号線(アンタナリボトアマシナ間)におけるマンゲル橋及びアンツァパザナ橋改修計画 (マダガスカル)

鉄道との併用で、列車の通過時には封鎖されていた。架け替えでは、2車線化で物流性能の向上と利用者の安全確保が求められた。両橋梁とも1日当たりの交通量を2000台(2018年)から3600台(25年)に増やすことを目指した。設計監理を長大・CTIIJV、施工を大豊建設・鴻池組JVが担当した。

新マンゲル橋は延長102m、幅員は2車線各3.5m、歩道左右各1.5mの規模。工事区間は橋を含め700m。鉄道専用として残す既設橋の上流側に、新たに3径間連続プレストレストコンクリート(PC)箱桁橋を直接基礎で構築した。上部工は移動式型枠による張り出し架設工法を採用。河川の流量が多かったため、日本の専門工



完成したアンツァパザナ橋

オールケーシング工法で築造した。両橋梁に適用された工法は、いずれもマダガスカルで施工実績が乏しく、工事中は発注者の同国公共事業省の関係者をはじめ、多くの学生や地域住民が見学に訪れたという。

が万全の安全対策を準備した上で施工した。河川増水や降雨の影響を踏まえ、途中で橋台前面の護岸工や切り土のり面への防護工を追加している。新アンツァパザナ橋は単純PC中空床版橋で、延長30m、幅員は2車線各3.5m、歩道左右各1.5mの規模。工事区間は橋を含め120m。杭基礎を採用し、日本の専門工

